

経済政策論 A

—IS-LM 分析と財政・金融政策：概論—

山田知明

明治大学

2025 年度講義スライド (2)



短期のマクロ経済分析

- 短期の経済分析：景気循環
 - 価格調整メカニズムは不完全：不完全競争
 - 主に需要サイドを分析
- 長期の経済分析：経済成長
 - 市場は (ある程度) 完全に動く：完全競争市場
 - 主に供給サイドを分析
 - 「供給はそれ自ら需要を生み出す」 by J.B. セイ
⇒ セイ法則
- ショートサイドの原則
 - 足りない方で決まる

需要・供給から総需要・総供給へ

- 経済学の基本は「需要」と「供給」
- マクロ経済学でも基本的な考え方は同じ
 - 総需要・総供給曲線
(Aggregate Demand/Aggregate Supply)
 - 価格の代わりに一般物価あるいはインフレ率

[図：総需要・総供給曲線]

- 一般物価と総需要、総供給の関係は本当に正しい?
⇒ Yes だけど...
 - 当面の目標：総需要・総供給曲線の背景を探る
 - 総需要・総供給曲線の理論的基礎付け

政策当局が見ているもの

- なぜ総需要と総供給が経済政策にとって大切なのか？
 - インフレ・デフレと失業のメカニズムを理解出来る
 - インフレギャップ・デフレギャップ \Leftarrow 政策の指針に!
 - GDP キャップ・需給ギャップとも呼ぶ
 - 再考：物価調整速度は速い？遅い？
 - Nakamura and Steinsson (2008,QJE)、才田・肥後 (2007,BOJ)

景気対策：総需要管理政策という考え方

- 日本の場合：デフレギャップを埋めるために経済政策
 - 総需要が足りない
 - 総需要曲線を右にシフトさせたい ⇒ どうやって？
- 総需要管理政策：ケインズ政策
 - J.M. ケインズ (1936) 『雇用・利子および貨幣の一般理論』
 - 有効性をめぐる様々な議論：後ほど
- 総供給曲線がシフトすることもある
 - 例：東日本大震災に伴うサプライチェーンの崩壊、コロナ禍の世界経済 etc.

景気循環と安定化政策

- なぜ景気対策が必要になるのか？
 1. 家計は消費 (生活水準) の極端な変動を嫌う
 2. 失業の解消 (特定の人への被害が大きい)
 3. 資源の非効率利用
 - 潜在 (完全雇用)GDP を達成したい
- 景気安定化策を取った場合のコストも勘案する必要がある

静学的マクロ経済学を理解する

- マクロ経済を理解する上で必要になる3つの変数

1. 産出量 (GDP)

- 総需要と総供給
- 失業率も大事だけど失業率は GDP ギャップとリンク

2. 一般物価水準 (インフレ率)

- インフレ・デフレの分析

3. 利子率 (金利)

- 資本市場、投資と金融政策の分析に必要

- 3 変数を同時に理解するのは難しい!

- 3次元の図を書くのは大変...

IS-LM モデル再考

- 1. 産出量と 3. 利子率の関係
 - 2. 物価はひとまず一定と仮定 ⇐ 短期間では物価は変化しない
- 短期&静学的マクロ経済学に基づく経済政策理論
 - 経済学者間の意見の相違大
 - でも公務員試験などには頻出
- 「批判的検討課題」としての IS-LM モデル
- 物価が一定と仮定する事の現実的妥当性
 - 賃金・価格の硬直性 (粘着性)
 - 短期的には価格調整速度は緩やか
 - 理由：メニューコスト、不完全競争 etc.

IS-LM モデルとは？

- IS-LM モデル：ケインズ経済学
 - 財市場と貨幣市場を考える
 - 将来から切り離された経済
 - 将来の期待や予想が現在の経済に影響しない
 - 価格硬直性 (粘着性) を仮定
 - 市場の調整機能は不完全
 - 短期の経済変動を決定するのは総需要
 - 有効需要の原理
 - 有効需要を喚起する経済政策の必要性

財市場の復習

- 財市場：実物的側面 (Real Side)
 - 利子率と産出量の関係は？
 - 右下がりの図が描ける
- 総需要
 - 産出量 = 消費 + 投資 + 政府支出 + (輸出 - 輸入)
 - $Y = C + I + G + (X - M)$
- 以下では閉鎖経済 (Closed Economy) を考える
 - 海外との取引 ($X - M$) を省略
 - 為替レートの変動を無視
 - 海外取引を考慮した IS-LM モデル
⇒ マンデル＝フレミングモデル
 - 国際経済に関心がある人は、シュミット＝グローエ・ウリベ・ウッドフォード『国際マクロ経済学』
 - マンデル＝フレミングモデルはないけど

今後の指針

1. 消費理論

- ケインズの消費関数
- ライフサイクル仮説
- 恒常所得仮説

2. 投資理論

- 投資と利子率の関係性